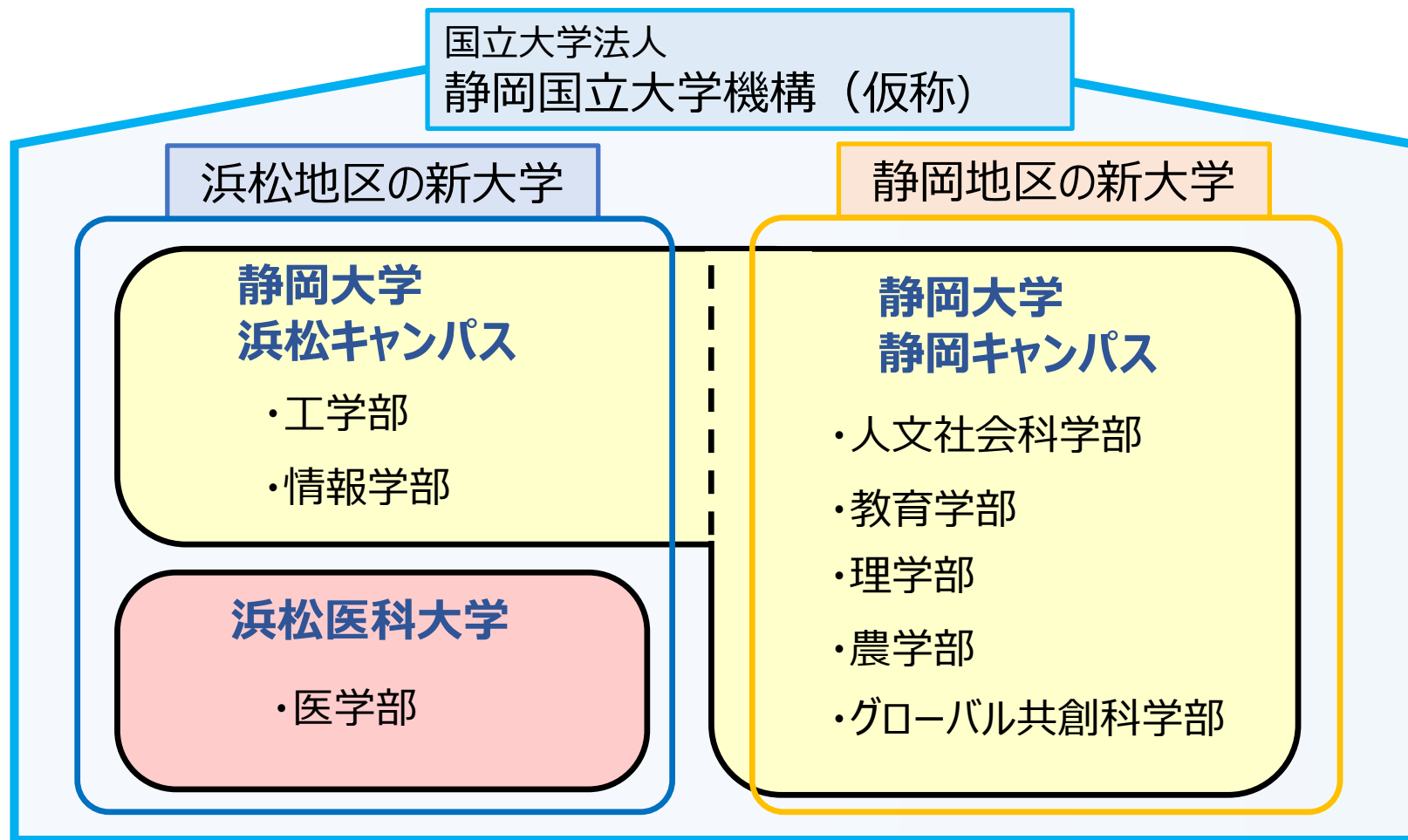


国立大学法人静岡大学・国立大学法人浜松医科大学 新法人設立・大学再編構想

2024.8.6
静岡大学・浜松医科大学
統合・再編促進期成同盟会

本資料の無断転載を禁じます。



法人統合 浜松医科大学法人を廃し、静岡大学法人を静岡国立大学機構（仮称）とすることにより法人を統合する

大学再編 現在の静岡大学と浜松医科大学をそれぞれの地区の新大学に再編し、一つの法人の傘の下で運営する

静岡大学 計8447人

静岡キャンパス	人文社会科学部	1916人
	教育学部	1194人
	理学部	1008人
	農学部	787人
	グローバル共創科学部	115人
浜松キャンパス	情報学部	1077人
	工学部	2350人

浜松医科大学 計968人

半田山	医学部	968人
-----	-----	------

静岡地区大学 計5020人

静岡	人文社会科学部	1916人
	教育学部	1194人
	理学部	1008人
	農学部	787人
	グローバル共創科学部	115人

浜松地区大学 計4395人

浜松	情報学部	1077人
	工学部	2350人
半田山	医学部	968人

※表中の人数は、学部学生の数のみで、大学院生の数は除く

静岡大学と浜松医科大学をひとつの法人に統合し、地域ごとの新大学に再編

**静岡県内で唯一の国立大学法人として、
両大学が県域の地元自治体や企業ときめ細かな連携を実現**

静岡市と浜松市は地理的に離れているため、地域単位の大学として再編することで迅速な意思決定が可能となる。再編された両大学がひとつの法人の下に置かれ、県域全体の課題解決や新産業創出に資する。

国立大学法人静岡国立大学機構（仮称）

浜松地区の新大学



3分野の連携強化、それらに精通した人材の育成・研究機会の提供、AI・ビッグデータを用いた教育・研究・医療の提供、新たな機器開発

地域産業界への貢献

浜松地域に医科工科系 新大学の設置

医学・工学・情報学が
融合した先鋭的な
医科工科系大学として高い
ブランド力の獲得を目指す

静岡地区の新大学



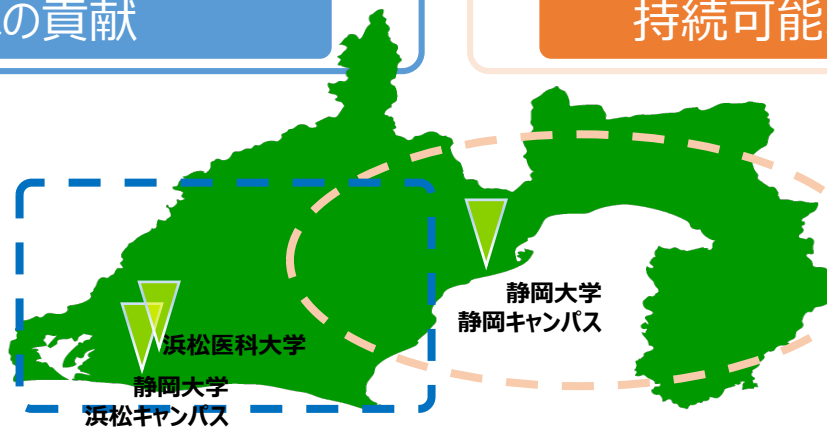
グローバル共創科学

県内他大学との連携を含め文理融合の推進
や、他大学に率先したSDGs達成への総合的
な取組

持続可能な社会システムの構築

静岡地域に文理融合 新大学の設置

「自由」「多様性」
「持続可能性」を理念とし、
総合知を持った地域の期待に
応える人材の育成を目指す



地域特性等を考慮した大学再編

先進的な技術やアイデアが大学の研究室で生まれ、それらは地域の企業やスタートアップによって商業化され、地域に産業集積地を形成している

静岡地区と浜松地区は地域性にそれぞれ特長があるため、地域単位の大学として再編することで、地域特性を考慮した機能強化を図る。

ボストン・ケンブリッジ周辺の
医薬品・医療機器産業集積地

○マサチューセッツ工科大学 (MIT) & マサチューセッツ 総合病院 (MGH) 等

Moderna/Biogen/Boston Scientificなどの先進的な医薬品・医療機器開発関連企業の創業や技術開発に関わるとともに、世界中から集まった優秀な学生や研究者が、地域の教育、研究、産業における質の高い人材プールとなっている。

研究開発現場と臨床現場、関連企業の産業集積地が構築されることにより、高度な技術や製品開発による新産業が創出され、地域経済が活性化されている。

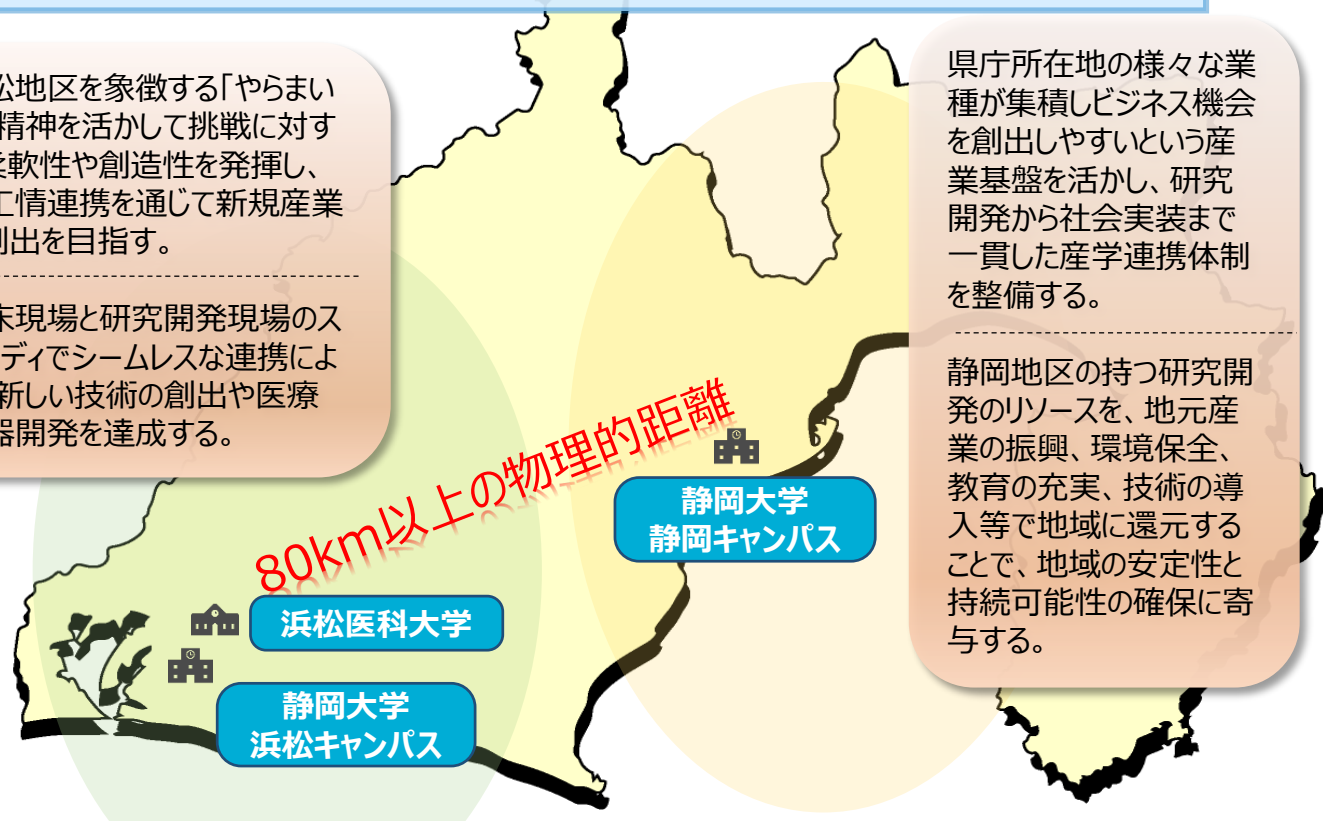
浜松地区大学
の目指す姿

浜松地区を象徴する「やらまいか」精神を活かして挑戦に対する柔軟性や創造性を発揮し、医工連携を通じて新規産業の創出を目指す。

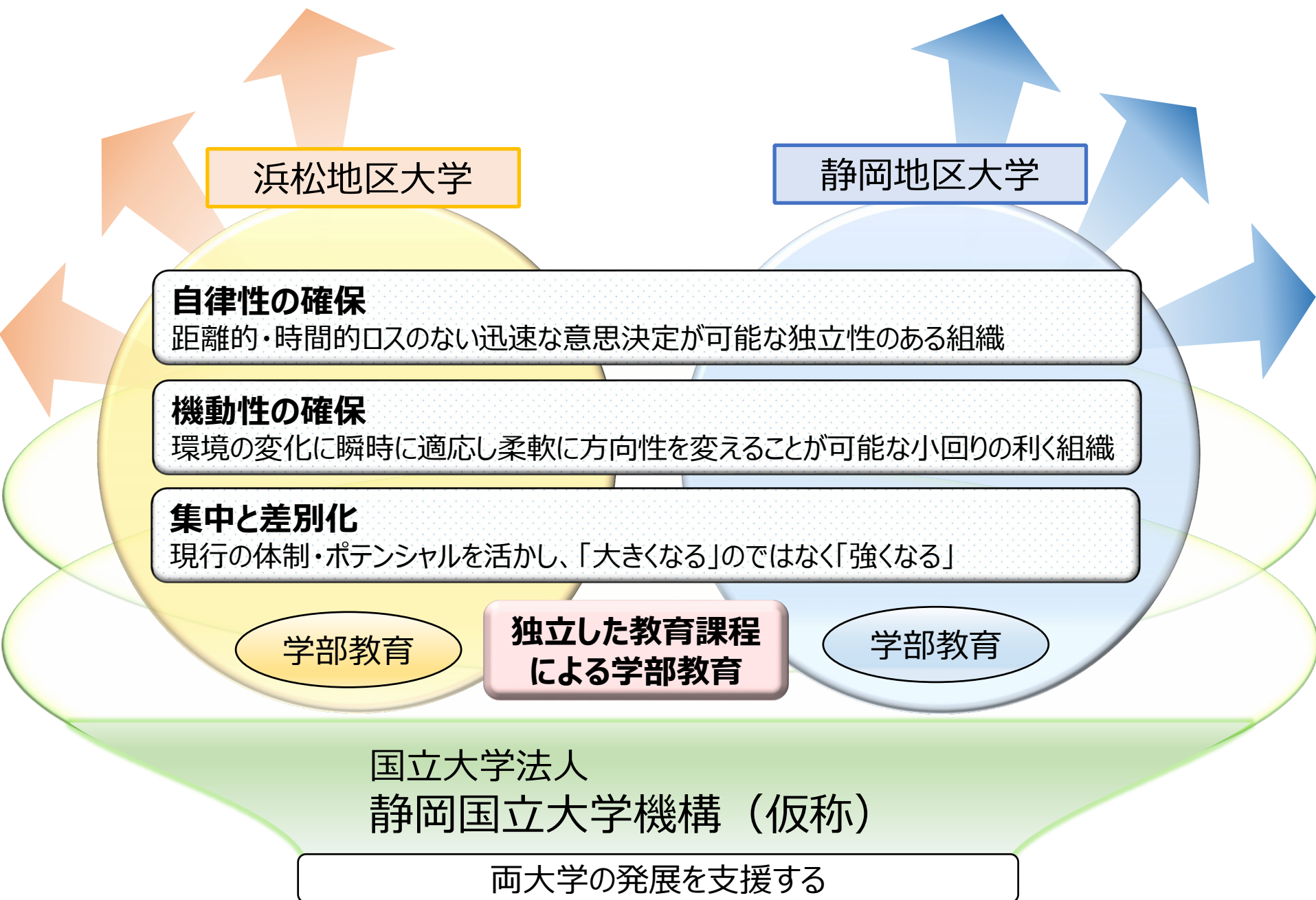
臨床現場と研究開発現場のスピーディでシームレスな連携により、新しい技術の創出や医療機器開発を達成する。

県庁所在地の様々な業種が集積しビジネス機会を創出しやすいという産業基盤を活かし、研究開発から社会実装まで一貫した産学連携体制を整備する。

静岡地区の持つ研究開発のリソースを、地元産業の振興、環境保全、教育の充実、技術の導入等で地域に還元することで、地域の安定性と持続可能性の確保に寄与する。



イノベーション/新産業の創出には
「大学」が「地域」に結びついた活動が必須



「進化した地域貢献」と「新たな分野での世界への挑戦」の両立のために

浜松地区大学

静岡地区大学

分野横断的な関係関係

複合的な領域で
イノベーションを創出

国立大学法人
静岡国立大学機構（仮称）

経営資源の集約化と効率的運用による資源の再配分
地域ごとの大学の自律的運営を支援
一法人二大学総力の分野横断的な取組・異分野間の関係強化

知と人材の集積拠点機能強化のために両大学の発展を支援し、
二大学の関係の成果を法人として静岡県全域、日本、世界へ波及させる

現在

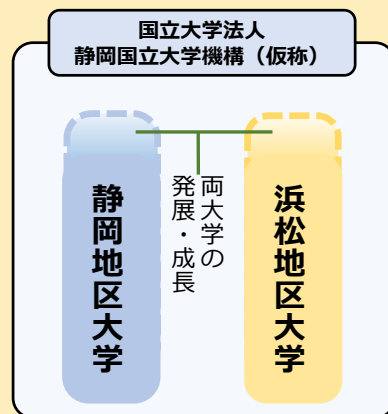
静岡大学

浜松医科大学

- 2つの国立大学法人が、それぞれの大学で管理・運営を実施

フェーズ1 法人統合・大学再編スタート

再編二大学の確立・成長

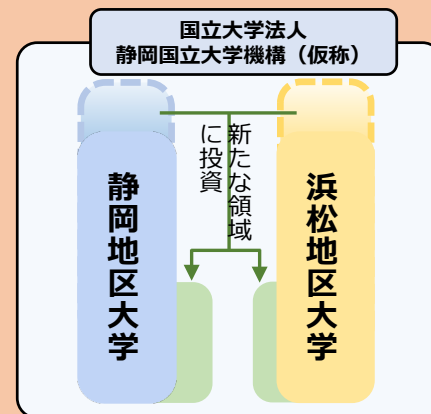


両大学の成長

- 再編した二大学が両大学のそれぞれの専門分野を生かした教育・研究を推進し、**両大学の強み、特色を一層明確化・発展**させ、従来にない新たな教育・研究分野の開拓と人材育成を促進する。
- より地域に密着した教育・研究戦略によって**尖鋭化した大学を確立**させる。
- 現行の**学部教育体制を改編せず維持し、新たな負担を生まない**スムーズな法人統合・大学再編を行う。

フェーズ2

法人が両大学のアウトカム還元の方針をコーディネート



法人の戦略

- フェーズ1で確立・成長した両大学の強みを日本、アジア、世界へ波及させるため、世界情勢に合わせた**方針の重みづけを法人がコーディネートし、両大学の成果を社会に還元**する。
- 経営基盤の強化・経営の効率化によって得られる資源を**新たな領域の成長に投資する判断**を法人が行う。

浜松地区大学について

Innovative Society & Better Life Acceleration

より良い未来、豊かで幸福な人生を支える社会の創生
成果を地域に還元するとともに世界へ発信

ソーシャルウェルネスの実現

個々の身体的、精神的、
そして社会的に健康・健全で
安心な社会の創生

イノベーションの創出

独創性に富んだ科学技術を
創出することによる、
幸福な社会の創生

スーパーシティの実現

革新技術・AI・ビッグデータ・
ネットワークを活用し、
住民の参画した社会の創生

オープンイノベーションプラットフォーム

国内外の人材の受入
共同研究等の促進

地域連携・国際連携
による知の拠点の形成

未来ビジョンの
バックカスティングによる
戦略的な教育・研究施策の展開

国・
自治体

医・看

異分野融合
教育・研究

工

産業・
金融界

高度で安全な
最先端医療の提供

情

地球環境に調和する
革新技術の創出

医学・工学・情報学が連携した
Society5.0時代の先鋭的な大学

「ものづくりのまち 浜松」の地域性を活かした教育・研究力向上への取組



- 2022
次世代創造医工情報
教育センター創設
- 2019
医工連携拠点棟完成
- 2018
光医工学共同大学院開講
- 2016
地域イノベ・エコシステム
形成プログラム
- 2013
COI-S拠点
国際科学イノベーション拠点整備事業
- 2012
地域イノベーション戦略支援プログラム
- 2011
JST地域産学官共同研究拠点整備事業
(はままつ医工連携拠点)
- 2007
第2期知的クラスター創成事業
- 2002
第1期知的クラスター創成事業

浜松医科大学×静岡大学
研究と地域連携事業

デザイン思考、クリティカル思考
の涵養を目的とした
学部学生・大学院生への
アントレプレナーシップ教育
社会人へのリカレント教育

医学・看護学と、
工学や情報学など
異分野横断的共同研究や
医療情報解析

地域の中核大学としての
教育研究機能の強化

Well-beingに資する医療機器や
アプリケーション等の研究・開発促進

学生・大学発ベンチャー・
病院発ベンチャーの創出

オープンイノベーション促進と
地域の課題解決への更なる貢献

若手の柔軟な
キャリアパス形成や起業

医療機器・システム開発や
ウェルネスの実現

DXによるレジリエントな地域医療体制の樹立や
起業支援等による社会課題への挑戦

ソーシャルウェルネスの実現

イノベーションの創出

スーパーシティの実現

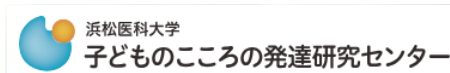
地元の他大学や自治体・スタートアップ企業などと
連携し地域とともに新しい価値を創造

静岡県全域の次世代に繋がる医療を共創



医療DXを発展させ県東部地域との医療連携体制を構築





子どもたちの幸福のために
研究を社会へつなげていく

ひとりひとり異なる子どもたちのこころ向き合います。
困難な時代においても、子どもたちを幸せにします。
日々科学に挑み、新たな支援方法を開発し、社会へと展開していきます。

発達障害児への
医学的アプローチ



発達の程度に応じた
教育計画の開発

学校現場での調査を
通じて得られた研究成果

学習を支援する機器や
コミュニケーションツールの開発

個別サービスのマネジメントや
社会支援の状況調査

心理的なストレスや
社会的孤立についての研究や介入

発達障害児や家族が
抱える社会問題の調査



情報社会学科
Socio-Information Studies

発達障害児の
社会学的調査

情報社会学科では、情報技術や情報システムの可能性や危険性などを理解したうえで、現在の情報社会をもう一度見直し、情報通信技術の発展に対応した新しい「情報社会を「デザイン」できる人材を育成します。

情報社会学科の教育
が目指す人間像

- 多様な専門家との協働し、よりよい情報社会をデザイン・実現できる人材を育成する
- 従来の人文社会系の専門知識以外の、**新しい知識、実践的なスキル**なども学ぶ



受胎生・保護者の皆さま

在校生の皆さま

現職教員・教育関係者の皆さま

地域・一般の皆さま

先生になることがゴールじゃない。



発達障害児への
教育方法の研究・実践

成長し続ける教員の育成。これが「静大品質」です。

医学部-教育学部-情報学部で連携し、 発達障害児に対する

・高度専門家の育成

・教育プログラムの作成

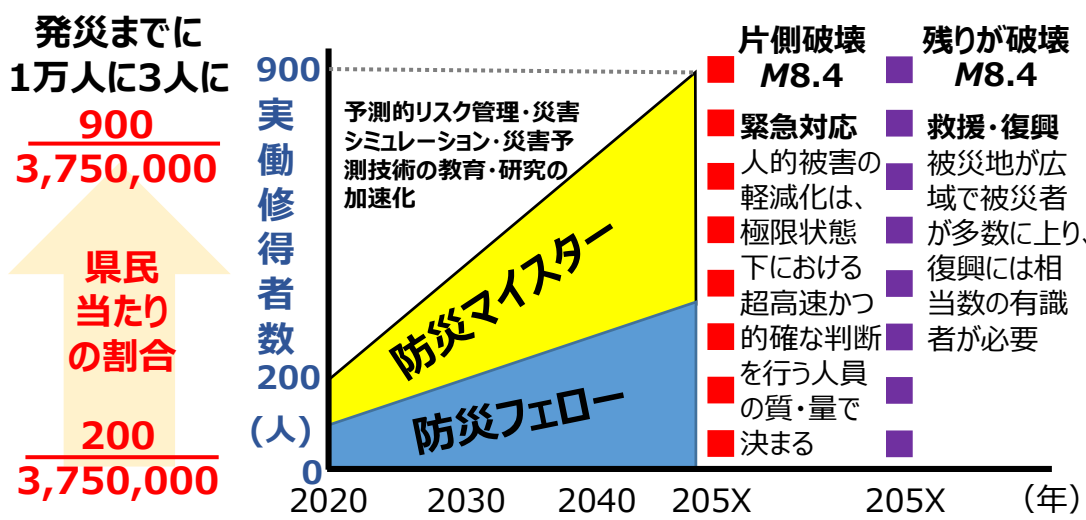
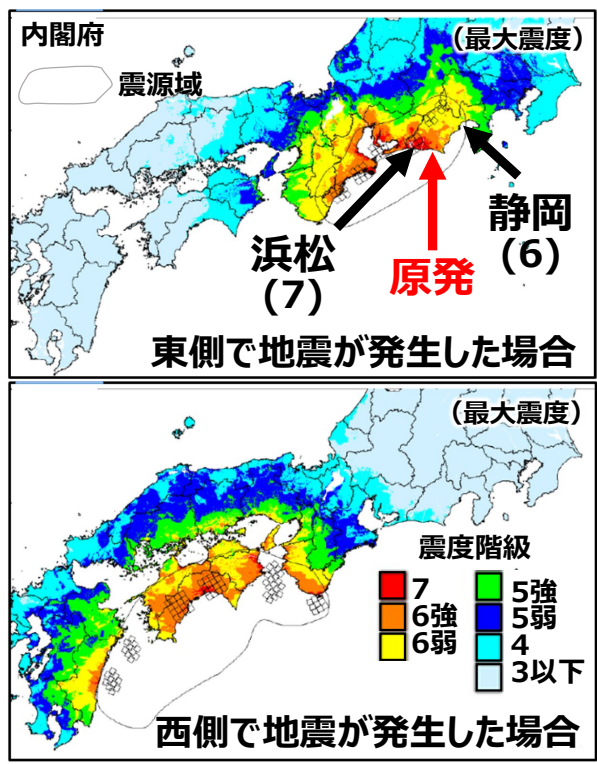
・学習支援機器/コミュニケーションツール開発

を実施し、静岡県において全国で類をみない 先進的な発達障害児教育を実現する

静岡地区大学について

- **予測的リスク管理** 高齢者の分布や災害時の救助・医療ニーズ、耐震化率、液状化の発生度などから、被災影響度を定量的に評価し、静岡県 の点群データと連結させ、高精度デジタルマップを構築。それを基に災害発生や進行を予測するAIシステムを構築し、災害への備えを強化する。
- **災害シミュレーション** 仮想現実技術(VR)を使い、災害発生時の状況をリアルに再現し、災害訓練やシミュレーションを行う。
- **リアルタイム情報共有の強化** 災害発生時には、インターネットやモバイル技術を活用し、リアルタイム広域情報の共有化を図り、AIやビッグデータ解析を用いて即時に被害状況を分析。
- **災害予測技術の教育・研究** 防災マイスター・防災フェローの教育カリキュラムに、災害予測技術の専門講義や研究プロジェクトを加え、さらに能力を高めた人材を育成する。

次の南海トラフ巨大地震のシナリオ M-8クラスの半割れ



海洋産業クラスターの清水区沿岸地域は、地震前までは地盤沈降が継続し、地震時には液状化するので、巨大地震に対して最も脆弱な地域である。液状化マップの精度向上などを行い、防災力を強化する。

解決すべき課題

- 世界規模での人口増加・食糧難
- 国内での食料の安定供給
- 防災にもつながる自然環境・里山里地環境保全
- 少子高齢化に伴う1次産業の衰退
- etc...

具体的目標

- **持続可能な農業システムの開発**
新しい農業技術や栽培方法の導入により、環境への影響を最小限に抑えつつ、生産性を向上させる手法の開発。
- **脱炭素への取り組みや気候変動への適応策**
気温の上昇や甚大な気象災害への対策、脱炭素のための新しいシステム開発や水資源管理の研究。
- **食糧安全保障の向上、健康への影響の研究**
地域へ農業技術や持続可能な農業の知識を提供し、さらに栄養や健康に関する情報を提供することで、地域の食糧安全保障を向上。
- **農産物の医療利用**
植物や農産物の医学的有用性を解明し、それを活用して新しい医薬品や健康製品の開発に貢献する。



地球温暖化による海面上昇は、津波・高潮・洪水の被害が増大するため、**脱炭素は防災にもつながる**



課題

現代の地球規模の課題である気候変動問題や、地域社会の最重要課題である地方創生・地域活性化をはじめ環境、エネルギー、人口、ウェルネス、生命、経済、防災など、**あらゆる領域で問題が複雑化**しており、単に専門家が集まるだけでは解決は困難。

**異分野の人材が深く連携・協同し、
「総合知」を活用して解決すべき重要課題**

令和5年4月

文系・理系の幅広い分野を学ぶことができ、かつ、国際的な視野を持ちつつ、地域の課題解決に向けて自ら行動できる人材を育てる「**グローバル共創科学部**」が静岡キャンパスに誕生

複眼的視点からものごとを把握・思考できる共創型人材の育成

未来の課題群を解決するための3つのコース

・国際地域共生学コース

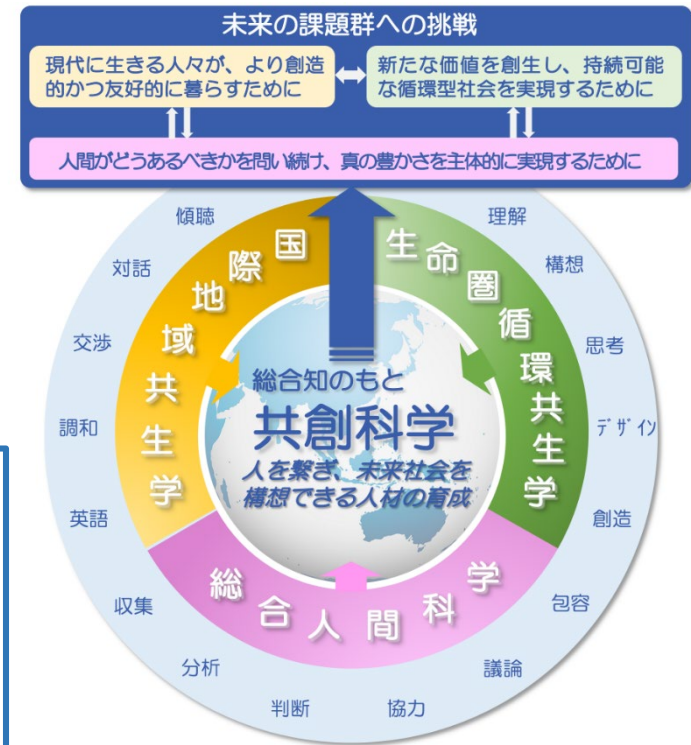
現代に生きる人々が、より創造的かつ友好的に暮らすために

・生命圏循環共生学コース

新たな価値を創出し、持続可能な循環型社会を実現するために

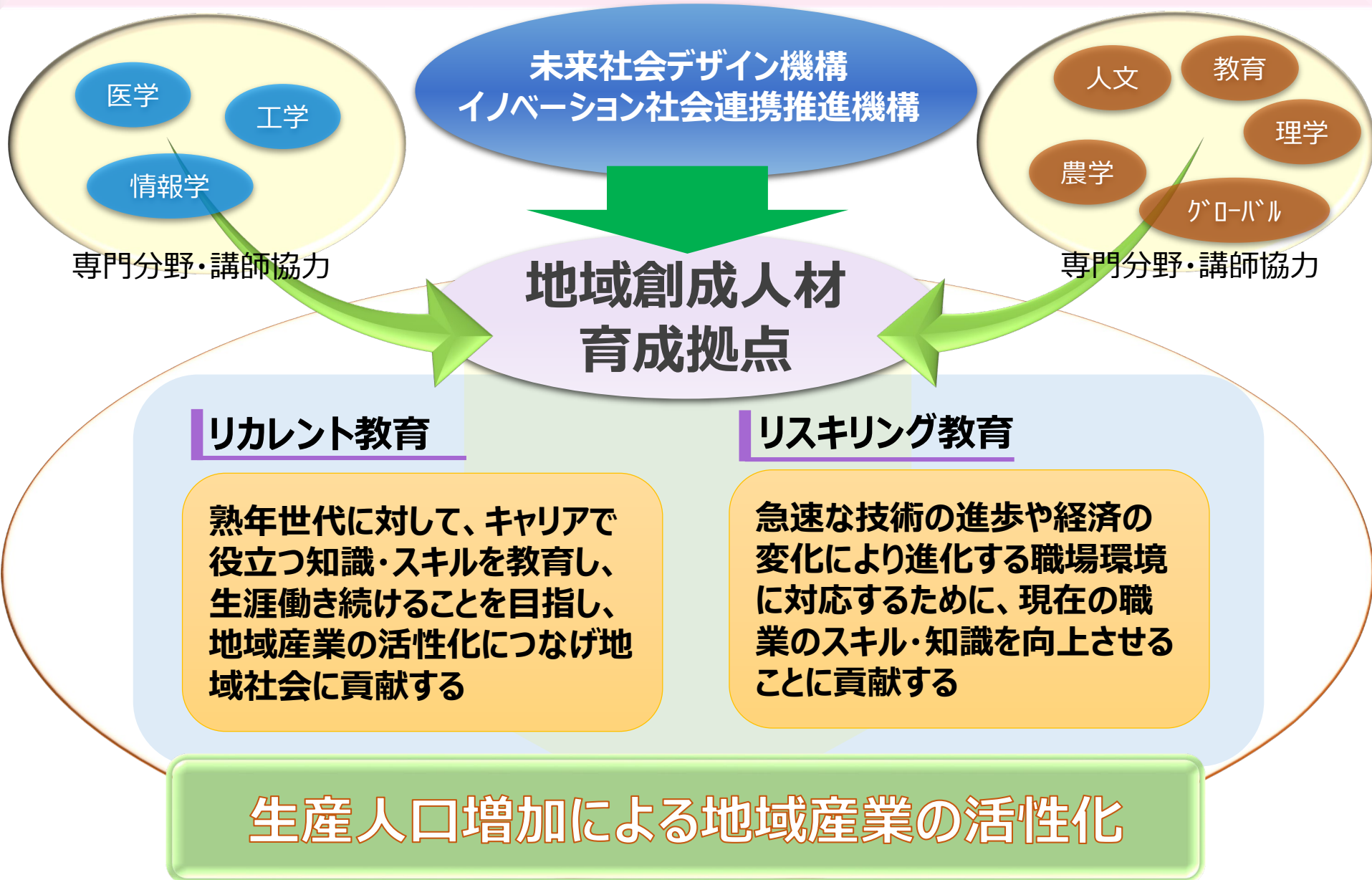
・総合人間科学コース

人間とはどうあるべきかを問い続け、真の豊かさを主体的に実現するために



**体験型のカリキュラムを通じてコミュニケーション力・実践力を身につけ、
コーディネーター・ファシリテーター能力を身に着けた経済界の求める人材を育成**

社会人の学び直しのための拠点形成

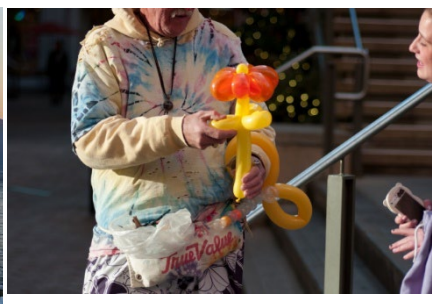


インバウンド需要の取り込みと 持続可能な地域観光産業の育成

コロナ禍による渡航制限が緩和され海外からの観光客やビジネス訪問者数が回復
「観光立国推進基本計画」等、政府が訪日観光客の増加のための施策を実施

静岡県の豊富な観光資源

- 自然** 世界的に認知度が高い富士山を中心に駿河湾や伊豆半島など豊かな自然
- 文化** 茶摘み体験や日本茶作り、静岡の伝統工芸作成、伊豆・熱海・箱根を中心とした温泉郷体験
- イベント** 「大道芸ワールドカップin静岡」や「浜松まつり」「河津桜まつり」など、ユニークなイベントが開催



国立大学も教育・研究から「観光」にアプローチ

- ・海外のニーズの汲み取りと地域観光資源へのマッチング
- ・文化の異なる観光客に合わせた旅行プランの最適化と情報発信
- ・観光資源の多元化・多様化によるオーバーツーリズムへの対策と持続可能な観光計画の策定と評価



静岡理工科大学

静岡県立大学

自然や社会の環境変化に適応した海洋利用のデザインに関する研究を行い、静岡県の海洋産業の発展や防災等の諸問題の解決に寄与する

研究目標

- 駿河湾スマート海洋シティの防災研究
- 駿河湾の海洋環境の詳細調査
- 海洋生態系の再生、資源の応用研究
- 持続可能な海洋資源に関する研究

駿河湾スマート海洋シティを含む静岡県沿岸地域の海洋産業クラスターの持続的発展に不可欠な巨大地震・津波への防備のための基礎・応用研究

海洋生物の放卵誘起、受精および飼育法の開発や海藻バイオマスの回復を行うことにより、静岡県の特産であるサクラエビ・アサリ等の増産に貢献

病原性微生物等の生育機構を解明することで、養殖魚の感染防止及び難分解性マイクロプラスチックの分解方法の開発を目指すための基礎・応用研究

駿河湾に生息する多様な動植物・微生物から新規生理活性物質を探索し、食品・医薬品産業への応用を目指す

生態系や環境の変化の推定

持続可能な資源管理

未開拓分野物質の研究

気候変動の予測

巨大地震・津波の予測



東海大学
海洋学部

地元企業

海洋研究開発機構
(JAMSTEC)

県内自治体

科学的な知見に基づき、駿河湾の課題である水環境の変化や沿岸地域の防災体制構築に貢献し、さらに新たな海洋資源の開発や次世代の海洋分野を担う人材を育成

これからの20年を見据えて

2001年に文部科学省が打ち出した大学（国立大学）の構造改革の方針
「活力に富み国際競争力のある国公立大学づくりの一環として」が示される

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu8/toushin/attach/1331038.htm

2003～2004年 地域の総合大学と医科単科大学の合併

ある程度のスケールメリットを確保し限られた資源を活用した戦略的な経営
→各地に「ミニ東大」「ミニミニ東大」の設置

福井大学+福井医科大学 ⇒ 福井大学
島根大学+島根医科大学 ⇒ 島根大学
香川大学+香川医科大学 ⇒ 香川大学
他5大学

デジタル技術の進化

インターネットやモバイルデバイスの浸透
ソーシャルメディアの台頭

地域社会の危機

少子高齢化や大都市圏への人口流出
地域社会の衰退

20年
に
わた
る
社
会
構
造
の
変
化

多様性と複雑性

異なる価値観や文化の交錯・共存

大規模災害への警戒

南海トラフ巨大地震対策の必要性

気候変動と環境問題

持続可能性への関心の高まり

再生可能エネルギーへの転換や廃棄物削減

**これからの20年にわたり、国立大学が
国際的競争力を高め、地域課題の解決に資するために**

・スケールメリットとともに（1 法人）

様々な課題解決に素早いアプローチを可能とする迅速な意思決定（2 大学）

・高校生に選ばれるためのブランド力の構築（尖端性）

・地域の課題解決に最適化したキャンパス配置（大学再編）